

第8回 高原地区街づくり協議会 議事録（要旨）	
開催日時	平成28年7月14日（木）18：30～21：00
開催場所	旧福住幼稚園 旧リズム室（多目的ルーム）
出席委員	15名
欠席委員	辻沢委員、井手委員
その他出席者	堀内氏（ぽかぽか工房／誠優会）、赤司氏（Slow Culture） 高津氏（奈良県立大学）、小西氏（長滝復刻堂）
事務局	城内市長公室理事、加藤総合政策課長、上田主幹、岩田課長補佐、吉本係長、島田主査、藤田主任主事 （関係課）環境経済部・東次長、教育総務課・西岡課長、学校教育課・吉岡課長、農林課・山村課長、色雲係長、産業振興課・米田係長
議事内容	
<p>1. 開 会 -18：30-</p> <p>2. 市長挨拶</p> <p>前回からの間にも、福住幼稚園を活用したジョブズスクールの開始、酒米作付推進事業でのお酒「氷室のさと」の完成、山田においては虫送りや田植え体験など、地元主導で様々な活性化の取組をしていただいた。また今日は氷祭り間際で準備等も大変な中ご参集いただいたことに改めて御礼申し上げます。</p> <p>今日は地方創生アドバイザーである奈良県立大学の高津先生とそのゼミ生の皆さん、福住幼稚園跡を地域の拠点としていこうということで連携していただいているぽかぽか工房（誠優会）の堀内さんにお越しいただいた。また、福住で暮らすことの豊かさをライフスタイルブックとして形にしようと一緒にご活動いただいている赤司さんにお越しいただいている。赤司さんはご自身が宇陀に実際に移住され、まちおこしをされている。今日はご自身の移住経験も伺いつつ、皆様方とともに議論していきたいと思っている。本日もよろしくお願ひしたい。</p> <p>3. 委嘱状の交付</p> <p>新たな委員3名を紹介後、代表者に委嘱状を交付した。</p> <p>4. 議事録の承認</p> <p>第7回協議会の議事録につき、異議なく承認された。</p> <p>5. 議 事</p> <p>(1) 基本構想に基づく基本協定の締結について</p>	

会 長

このたびこれまでの街づくり協議会での議論を踏まえ県と基本協定を結ばせていただいた。内容についての概ねの議論のところはこれまでの協議会の内容を踏まえたものとなるので、事務局から簡単に説明する。

事務局

別添資料に基づき概要を説明。

会 長

今後の取組の説明にあたっては、この課題の部分に立ち返りながら議論を進めていきたい。

(2) 旧福住幼稚園利活用事業の進展と施設活用について

会 長

この旧福住幼稚園の利活用事業のこれまでの進展あるいは施設の活用方法の検討について、事務局から経緯を説明した後、堀内さんから事業のご説明をいただきたい。

事務局

○利活用事業経緯の説明

○誠優会様との契約締結及び6月の第2回市議会での施設貸付の承認を報告。

堀内 氏

今回、障がい者の介護福祉事業の収入を資本として幼稚園の活性化プロジェクトを立ち上げさせていただいた。障がい福祉や子育て支援の場として、お茶を飲んだりお話ししたり、地域のイベントを開催していただくなど、皆さんが集って楽しく過ごせる場所を設けたい。

施設については、作業室では障がい者の生活介護の事業としてSAORI織という織物や、木工、絵画などのアート制作等のいろいろな活動を行う。また、テレワークスペースでは多目的ルームのキッズスペースで遊ぶ子どもを見ながら仕事ができる。子育て世代など職場に行くのが困難な方にも利用してもらえればと思う。具体的にはまだ定まっていない部分もあるが、放課後小中学生に多目的ルームで宿題をしたり友達と遊んだりしてほしい。また、運動器具を置いて皆さんの健康維持に役立てたり、音楽を楽しんだり、大きなスクリーンを利用したビデオ観賞なども考えている。会議やワークショップなどにも積極的に活用いただいて、子どもからお年寄りまで多くの人が集い、楽しく過ごすきっかけになれることを楽しみにしている。

こうした場所を皆さんとともに作っていければと思っている。オープン時に全てを一度にするというのは困難かと思うが、皆さんのお力とお知恵を拝借しながら、少しずつ有意義な、皆さんのニーズにも合ったものにしていきたいと思うので、どうぞよろしくお願ひしたい。

会 長

昨年に区長はじめ福住の皆さんにご協力いただいたぽかぽか地球元気村のような形でまた地域のみなさんと交わる空間をご一緒に作っていただければと思う。また、この協議会に先立ち福住郷土活性化プロジェクト協議会の皆様と今後の施設利用の点でご協議いただいている。この機会に委員の皆様方からもご質問・ご提案等あれば承りたい。

委 員

ぽかぽかさんとも歩調を合わせて協力させていただけるところは協力させていただいて、多目的ルームで徐々に会としての事業も発表させていただければと思う。詳細は今後、都度協議させていただくということで、またよろしくお願ひしたい。

会 長

活性化プロジェクト協議会の皆さん、未来クラブの皆さんと、福住で採れた産品でマルシェをというようなこともこの場でこれまで議論もいただいていた。ぽかぽか工房さんのこれまでの取組としてもそういった農園や木工といった部分には、福住の中で素晴らしい先生方がたくさんおられる状況ではないかと思っている。是非ご協力をいただければと思う。

委 員

この地域の子どもたちがここに保護者と一緒に、あるいは自由に遊びに来て、SAORI織やものづくりをするというような、そういった交流の時間も今後考えておられるのか。

堀内 氏

地域の人権学習会への参加や、小中学校との交流などの機会は是非作っていただければと思う。知識だけでなく体験を通じて障がいへの偏見をなくす機会を1度でも多く与えてもらえるならばありがたい。まだ地域の学校とは話ができていない状態で、子育て支援のあり方についても放課後子どもたちがどうすればここに安全に通えるのか、帰りの送り迎えなども含めこれから学校とも協議していこうと考えているので、またお力添えいただければありがたいと思う。

会 長

市の補足としては、先ほど堀内氏からテレワークについての話があったが、まだ皆さんにそれがどういったものか充分ご説明できていない部分があると思う。少しご紹介したい。

事務局

(テレワーク実演)

会 長

テレワークは、パソコン上の仮想空間に職場を作るものとお考えいただきたい。ネットワーク上で呼びかけて仮想空間上の会議室に集まり、同じ画面上で書類を共有しながら会議をすることもできる。慣れればコミュニケーションは同じ場所で仕事をしているのと変わらない。都市部まで働きに行っていた方が体調の問題から長距離通勤が困難になり、テレワーク形態で就業を継続している事例もある。そういった働き方について普及促進をしていきたい。

また、設備を利用してメディカルセンターのまちかど相談室とつないだ健康相談窓口として利用したり、単純なテレビ電話としてお孫さんと交流したりもできる。意思疎通だけであれば、このシステムを使わなくてもネット上のスカイプやグーグル社のサービス等を使ってテレビ電話等が可能であるが、ここではオフィスとして使える機能が備わったものが導入されている。市としてもお子様連れでこられた子育て世代の方が空いた時間で仕事ができるような、そうした形で協調していただける企業ともつないでいきたいと考えているので、ぜひよろしくお願ひしたい。普及促進の面では、特に健康相談からまず開始できればと考えている。

委 員

このテレワーク事業の管理上の責任はどこにあるのか。子どもでも公共サービスのネットワークに不正侵入を行い、問題となっている。そういったことに対する安全管理は市が行うのか。

事務局

このテレワークに関してはS o c o c oというソフトを使っており、市で契約した事業者がいる。パソコン本体などのハードやセキュリティの面については市で担保することになるが、基本的にどのような内容の情報を扱うかによってセキュリティを高める必要がある。

会 長

市でも税や保険など、個人情報絶対に守らなければならないような部署では使用しない。各企業においてもこれで全ての仕事ができるかといえばまだ不可能である。ただ、自分で仕事の切り分けが可能な場合に、これを活用していただければ毎日の通勤の負担から解放される。そういった併用での利用が進めばと思っている。

(3)移住・定住促進に向けた取組について

事務局

資料に基づき移住・定住促進に向けた全体的な取組方針について説明。(4ページ)

会 長

我々としては、外から移住して来る方を受け入れようという部分と今の住民の皆様にとって

豊かな暮らしを支えるという部分は、互いにつながっておりどちらかを選択するというものではない。外から来る方にも豊かだと思っただけの部分はどう作っていくかということだと考えている。本日は赤司さんのお話を通じて、宇陀の住民の皆さんにどういう形で繋がっているのかということ意識してお話を聞いていただければと思う。

赤司 氏

- 自己紹介と東日本大震災をきっかけとした移住の経緯
- 自然の中で生きる宇陀の暮らし、地域行事への参加について
- ライフスタイルブックで大切にしたい地域のありのままの姿

会 長

赤司さんにはとても熱心に語っていただいた。皆様にはそれは普通だと思われるものでも、実際に東京などから移住した方の目にはそれが豊かさとして映っていることもある。それを次の世代や豊かな暮らしを求めている方に伝えるための素材を、今回赤司さんには一緒につくっていただきたい。またその中で皆様方にも、普通にやっていたことでも若い人や都市の人からすれば魅力的なのだというにお気づきもいただければと思う。赤司さんは移住体験者でもいらっしゃるので、この機会にご質問などもあれば、ご指摘・ご意見ともあわせて承りたい。

委 員

移住してくる人の中には若い人もいれば歳を取った人もいる。歳をとった人は割と付き合いが良いが、若い人は仕事の関係もあるからか、なかなか地域の付き合いには出てこない。赤司さんのように神社などの行事にもきちんと付き合ってもらえるような溶け込み方はどうしたらできるのか。

赤司 氏

たしかに自然豊かなところで暮らしたいけれど地域の行事は面倒くさいという人もいると思うが、僕のような人間は必ずいる。僕の周りでも4～5人はいて、奈良市の田原や山添村がいいと移住先を探している。類は友を呼ぶというが、そうした人たちが来てくれるとすれば、若い人が行事に来ないということもあまりないだろうと思う。1人か2人か3人か、最初のひと組がまず来てくれるようなことが起きればいいのか。

質問に上乘せするような回答になったが、僕が馴染めたのは皆さんのおかげだと思う。受け入れてくれる方たちが、できれば（行事に）参加してね、良かったら来てくれくらいの感じで声を掛けてくれる。絶対出てこいと言われたら身構える部分もあって嫌かもしれないが、できれば来てほしいんだと言われたら、ああ行きますという気持ちになれる。

委員

その人の性格を読めば解るということかと思うが、若い人の気持ちというものなかなか難しい。田舎暮らしが好きな人が住みたいと言って来ているということだろうか。そういう方がご友人にいれば是非呼んできてもらいたい。

赤司 氏

僕も移住先の地域に入って、自分の友人を是非呼びたいと思う気持ちが強くなった。原発事故があり、自然の物事を見直そうとしている若い方は確実に増えていると思う。移住した人もいれば、移住を希望しながら移住先がまだ見つかっていない人もいる。そうした人にとって高原地区はまさに住みやすい、住みたい場所だと思う。街にすぐ下りることができ、街と田舎の両方の要素を暮らしの中に持てるということも非常に魅力的な場所だと感じている。

会 長

小さなきっかけが次の繋がりを呼んでいくということだと思う。そうした方は日本全体にとっては限られた層かもしれないが、その皆さんにとって福住が魅力的な場所となるか、それとも素晴らしい場所だけでも知らないまま素通りされているか、この差はものすごく大きい。福住で育つ子どもたちにしても、他の街が羨ましいと思いつつのか、自分たちが外から羨ましがられる地域にいるという感覚で育つのか、この違いは大きい。

赤司さんには今年度、福住内を回っていただくことになる。是非皆様方にはご協力をお願いしたい。また、これに関連した事業が2つあるので、事務局から簡単に説明する。

事務局

資料に基づき、空家お試し事業・民泊体験事業について説明（5ページ）

会 長

赤司さんにいい冊子を作っていただいて、ご覧頂いていいなと思って来られる方がいても、やはり地元を受け皿が全くないと、実際の結果につながらない。今のうちからそうした流れをこの福住の中で受け止められるように、ご協力をお願いしたい。

(4)活性化に向けた取組について

①教育における取組

会 長

教育については、小学校で一部複式学級が出てきてしまった。今は校長先生・教頭先生の尽力で主要科目については学年別授業が行えているが、この状況が進行してしまった場合、子育て世代の皆さんに住み続けようと思っただけだろうか。私としては何としても学校を死

守したいと思っている。今後の取組案について、改めてご説明したい。

事務局

資料に基づき、教育における取組について説明。(6・7ページ)

- 福住小学校に小規模特認校制度を導入することについて
- 特色ある学校づくりの推進について
- 今後期待できる教育活動について

会 長

現在福住中学校の先生方は事務的な作業の面で、他の中学校よりも1人当たりの負担が大きい一方で、仮に小学校に授業のサポートで回っていただけたら、数の上では複式学級を解消できる。こういったことは既に県内でも行われている。押し付けることがあってはならないが、しっかり中学校とも話し合っていきたいと思っている。

また、小規模の学校ということで、市内では密度の濃い良い学習を行っていただいている。この特性を活かしていきたいと考えており、小規模特認校となった時に、今の何倍もの子どもを連れてくるという発想はない。学校の維持のため、平野部から来たいと言う学生を募れないかと考えている。

交通手段の部分の整理がまだ残っているが、福住全体として高原で育ちたい、学びたいという子どもを受け入れようという機運は是非盛り上げていただきたいと思っている。

福住の小中学校は修学旅行についても割高だと聞いているが、他の学校と一緒に行ければ割安になる。しかし、急に修学旅行だけ一緒に行けと言われても人数の違いなどで戸惑ってしまう。こうしたことを普段からネットワークを通じて交流してもらうことでもっと円滑にできないかということを構想している。

委 員

I C Tに関してはやはり教育が一番遅れている。教育には命の尊厳や人権と言った変わらない部分もちろんあるが、変えていく部分は変えていく時代に来ていると思う。そういう意味ではI C Tを使った授業を是非他の学校とも密接に、10年ぐらい先を見据えてやっていただければと思う。せつかくなら教育委員会も県や国、文科省を巻き込んで知恵を借りてはどうか。過去に中学生が他府県に1年通学したというようなこともあった。こうしたことが天理市内、福住であってもいいと思う。I C Tの活用は、これから子どもたちの教育の中核になっていく。協議会だけでなく地域の方でもご協力いただいて、是非とも協力者などの人材発掘をお願いできればと思う。

会 長

ICTではおそらく福住が一番進んでいる。その特色も出しながら進めてまいりたい。
また、子どもたちという関係でいくとジョブズスクールの方でも活動いただいている。差し支えなければこちらのご紹介もいただければと思う。

事務局

資料に基づき福住S・ジョブズスクールの概要紹介。(8ページ)

奈良県立大学 学生

私たちは福住S・ジョブズスクールに学生スタッフとして携わらせていただきながら、福住地区での地域交流・地域研究を進めさせていただいている。第1回開校式では多くの方にご協力いただいた。ジョブズスクールは全8回の予定のうち先日6月25日の蛍観察会で3回目を終えたところで、次回7月18日に三尺キュウリの収穫、奈良漬作りを計画している。

私がジョブズスクールに参加し、印象に残っているのは福住の子どもたちが本当に元気いっぱいだということ。学生スタッフに飛びついて遊びに誘ってくれたり、イベントが終わると次も遊ぼうねと言ってくれたり、とても嬉しく思いながら楽しく参加させていただいている。また、福住S・ジョブズスクールは子どもだけでなく、大人にとっても福住のいいところを再発見できる学習の場だと思っている。今後もご迷惑をおかけすることがあるかと思うが、どうぞよろしくお願いいたします。

会長

ありがとうございます。補足等あれば、ぜひどうぞ。

委員

学生たちの関わりによって学生の視点からこの地域の良さを見つけてもらいたい。子どもたちにはここが本当に素敵なところだということを感じてもらい、地域愛を育ててもらいたい。地域の大人の方にも、ジョブズスクールで子どもたちを通じてもっとこの地域の良さを、地域の繋がりを感じながら再確認してもらいたいと思う。

今後は中学生の地域への参画も目指していきたいが、クラブ活動などの都合もあり難しい面もある。また各公民館、こども園や各町の活動が連携できることが大事と考えており、ジョブズスクールの計画もなるべくあらかじめ各方面に相談して日程等を決めているが、どうしても重複することもある。同じ地区として調整や連携を大切にしていきたいと考えている。

また、今後都市部とその周辺部に人口が集中し、この地域が消滅可能性地域になり、出て行った若い人たちが戻れない地域になるのではないかという危機感がある。これには北海道大学で教育関係の教授職にある友人に来てもらい研修会を開いたりした。関係資料はまた皆様にもご覧いただいて参考にしてもらえればと思う。

会 長

そうした流れにならないようにこの街づくり協議会をしっかりとやって、この幼稚園やジョブズスクールの取組を活かしていただきたいと思う。ジョブズスクールは今この福住幼稚園跡と福祉センターの両方を活用いただいているが、堀内さんにもぜひ引き続いて連携していただければと思う。

続く交通の支援については、通学、通院、買い物という点でも重要になってくる。事務局の方から現在の取組検討状況を報告したい。

②生活支援（交通など）について

事務局

生活支援・交通などについては、まず交通の足がないことへの対策として現在様々な事例などを検証している。現在の交通事情としてはバス、デマンドタクシーがあるが、どちらも便数や乗り継ぎなどの点で不便さや、高齢の方からは家の前まで来てもらいたいとの意見もあり、そういったことも含めて検討を進め、住民の方が安全に安心して暮らしていけるようなまちづくりを目指していきたい。

天理から福住までコミュニティバスを引けばいいと言われるかもしれないが、既存のバス路線があり民業圧迫になってはならないということが、なにをするにも課題となる。ここに抵触しないように、いろいろな方策を考えているところである。ある村では、路線バスが利用者減少で廃線の危機を迎えた際、村の方々が自治体の協力も得て交通活性化協議会を立ち上げ、協議会の中で専門の講習を受けた運転手を手配して、村のバスを運行するようにした。これがすぐに福住に適用できるかという規模の問題などまだ検討が必要だが、引き続き勉強して参りたい。

この福住地区に適合するような方策をできるだけ緊急に見つけてまいりたいと考えているが、これには皆様方のご協力が必要になってくると思う。またよろしくお願ひしたい。

会 長

タウンミーティングなどでは、コミバスを延伸すればいいという意見をいただくが、既存交通を補助しながら同時にコミバスを延長することはまだ企業側とも整理はできていない。どういった方策であれば持続可能な形で公共交通を維持できるのか、先ほどの通学の部分ともあわせ、できるだけ早く検討していきたい。買い物支援についてもご意見等も多々あろうかと思う。まだ確たる答えを見つけられていないが、課題としての認識はきちんと持っており、今後の協議会でもご審議いただきたいと考えている。この場では我々自身の認識を示すということでご理解いただき、次の議題へ移りたい。

事務局

地域活性化の取組としては、県立大学の高津先生のゼミのほか、天理大学の岡田先生のゼミにおいても熱心に取り組んでいただいている。取組をご紹介したい。

岡田委員

天理大学では今年度からキャリアデザインという授業で、地域との連携として市職員などの協力のもと市内3地区の協議会での活動に対し、学生がそれを学びながら提言を模索するというを行っている。学生は自分の通う町の良さを探し、それを上げられないかと考え、提案をまとめてくれた。キャリアデザインは学生が授業を通して自分の就職・将来を考えることを目的としている。この授業が、学生が今後人生の豊かさについて考え、生活を変えるきっかけとなり、地域の町づくりに積極的に参画していくような人材を育てていければと考えている。

また、授業外では学生が福住地区に外国人を連れていきたいと、山田の虫送りに留学生を呼ぶ企画をしていた。あいにくの雨で中止になってしまったが来年は留学生に来てもらい、海外の目から見た福住の良さを発信してもらい機会を作れればと考えている。中心となって動いてくれた学生から、留学生の反応等の報告をさせていただく。

学生委員

天理大学の英米語専攻の学生を通じて留学生に声をかけた。こういった行事があると伝えると、留学生も非常に興味を示してくれて、すぐに申し込みをしてくれた。予定では9人の留学生が参加することになっていた。

会 長

週末の氷祭りなど、今後もいろいろな機会がある。ぜひまた来ていただきたい。天理大学様、県立大学様、双方ともまたどんどん交流をしていただければと思う。

では、引き続き活性化の取組をご紹介させていただきたい。

委 員

酒米プロジェクトについては昨年度の取組の成果としてお酒が完成し、氷室神社の献氷祭でもお使いいただいた。吟のさとという品種は育てやすいということで、引き続き育てていただいている。新聞の掲載もあり、今後は地元の蔵、酒屋で販売できないかと動き出している。

また、大和高原氷室のさとという名称、パッケージについては商標登録し、書類申請してもらえれば誰でも自由に使ってもらえるようにしていきたいと考えている。野菜や産品に使ってもらうなどして、名前が広まっていけばと思っている。

事務局

上山田では上山田農地保全会様主催で田植え体験が行われ、2歳から91歳まで幅広い年齢

層が参加し、ひとめぼれという品種の田植えを行った。会場となった上山田バス停側の田では現在田植え参加者の名札付きで生育中である。秋には稲刈り体験も行うということで、今後のイベントに繋がっていくものとなっている。

委員

氷祭りは今年で18回目となったが、回を重ねるにつれて人数の伸び悩みや復元氷室の屋根の痛みなどが出てきた。会員でもお金を貯め、もう一度復元できないかという思いでイベント等にも参加させていただいている。海の日のご参加をよろしく願いたい。

委員

メンバーが高齢化していることもあり、もし氷出しまでの間に、断熱材として入れているカヤを出したりといった作業をお手伝いいただけるのであれば大歓迎である。

会長

福住といえば氷室ということ、市内の皆さんにもしっかり知っていただくためにもしっかり発信していきたい。福住外の方でも主体的に参加したいという方があれば、今の担い手の話でも関わってくると思うので、そういった視点でも取り組んでいきたい。

また、同じ日に大和川源流体験ツアーをやっていただけるということで紹介いただく。

委員

氷祭りと同じ日になるが、市本議員からご紹介いただいた奈良NPOセンターさんを中心とする大和川わくわくフェスタ実行委員会さんからこの催しを開きたいという申し込みがあった。長滝町には復刻堂として中心となって活動いただいている小西さんがおり、せっかくお話をいただいたので、この機会に長滝を少しでももりあげようということで進めている。

小西氏

長滝の自慢は杉と檜だが、時代が材木を求めている。それなら町名の由来でもある長い滝を整備して親子で遊べる場所を作ろうと、消防団の皆さんとも相談して始めた。昨年NPOの方が来て、このイベントをすることになった。日程が氷祭りと重なっているから変えてほしいといったが、県に出している事業だから変えられないとのことでこの日程になった。スタッフや支援団体も含めてざっと200人体制となり、長滝町も協力しおにぎりやゆめん、もちつきなどのふるまいを行う。高齢化も進みしんどいと思うが、集まってくれた人のなかから1人でもここで野菜作りをしたりしながら空家に泊って仕事をしてもらえれば、長滝に少しでも長く滞在してもらえるとというのが狙いである。応募していなくても、是非当日参加していただければと思う。

会 長

福住校区内でのいろいろな取組の情報共有にもなったかと思う。他に8月のイベントとして春日台カントリークラブのイベントがあるので事務局から紹介したい。

事務局

資料に基づき、1000人キャンプファイヤー及びスポーツフェスタについて概要説明。

会 長

こどもも高齢者の方も対象となる2つのイベントが春日台で行われる。キャンプファイヤーは、福住で小規模特認校をやるにあたって、都市部の子どもたちが福住に来たいと思うきっかけになればと思う。スポーツフェスタについては会場を視察されたグランドゴルフ協会の方が、ゴルフ場でできることを大変喜んでおられた。どちらも良い機会なので皆様にも交流を持っていただければと思う。

皆様のお力添えで今年はいろいろなことができる機会が設けられている。これを次のステップに繋げられるようしっかり取り組んでいきたい。

高津アドバイザー

学生は福住で勉強させていただく中で考え方や見方も変わってきた。ジョブズスクールの取組等を通じて福住のご飯のおいしさも知った。皆様にも福住の魅力等を教えていただければと思う。また、合宿をさせていただいた際には区長さんや天理大学の岡田先生に格別のご配慮をいただいた。ありがとうございました。

6. 次回の日程と主な協議内容

次回・第9回会議は、10月から11月頃を目途として開催することを伝えた。

7. 閉 会 -21:00-